

深い学びへ新聞活用 坂井の教員 本社で研修



坂井地区の中学校教育研究会社会科部会は5日、夏季研修会を福井新聞社で行い、新学習指導要領を踏まえたNIEの実践や指導について理解を深めた。

NIE関連では初の研修で12人の教諭らが参加した。福井新聞社の徳島泰彦NIEコーディネーターは講座で、近年の「学習に効果があるからNIEを実施する」流れは、全



新聞記事の見出しを切り抜き、自由なテーマでオリジナルの新聞作りに挑戦する坂井地区の教員ら＝5日、福井新聞社

国学力調査のデータなどが立証していると説明。情報化社会の進展などを背景に「解のない問い、複数の解をグループで考える知識生産型の授業が求められている」と話した。

新学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」が重

視されており、「読解力の向上に加え、実社会とつながる深い学びを実践するにはNIEが有効」と話した。

続く「言葉の貯金箱」と題したワークショップでは、新聞から気になった見出しを切り抜き、レイアウトを考えな

がら台紙に貼り付けた。参加者は見出しの文言から自分なりのストーリーを描き、教員の働き方改革の方向性、夏休みの過ごし方といったテーマでユニークな「新聞」を完成させた。

坂井市三国中の廣瀬雅弘教諭(34)は「普段はあまり使わない言葉をつなぎ合わせ、連想することで語彙力が高まっていく」と感想を述べた。NIEの方向性については「確かな根拠となる新聞を基にグループで議論することで考えが深まると思う。まずは子どもたちが新聞に触れる機会を増やしたい」と話していた。

一行は編集局など本社見学も行った。(山口晶永)